



# 石神井南中学校 学校だより

令和 元年度 第 4 号  
発行日 7月17日(水)  
練馬区立石神井南中学校  
校長 田 邊 克 宣

## 元気な夏休みを

校長 田邊 克宣

このところ涼しい日が続いております。梅雨明けを元気に迎えられるよう、過ごしやすい今から体調管理を怠らないようにしたいと思います。

1学期も残すところあと数日となりました。平成31年でいえば半分を過ぎ、令和元年度としては四半期を終えようとしています。石南中生たちは、この3ヶ月間で、心身共に成長しました。

3年生は、中学校生活最後の修学旅行を成功裏に終え、大きな学びと思い出をその心に残すことができました。2年生は、職場体験で社会での実経験をすることに当たり、各自が準備から主体的によく取り組み、各事業所からはお褒めの言葉をいただきました。1年生は、挨拶の声が一際大きく、先輩の姿を手本としながら、だいぶ中学生らしくなってきました。

さて、学校の外に目を向けると、身近な社会でも、より広い世界でも、さらに遠く宇宙においても、日々、変化が起きています。それらは、人の知恵のなせる業であったり、あるいは人智の及ばぬ事柄であったりと様々ですが、いずれも子供たちを取り巻く環境であることに変わりはありません。変化の速度が格段に上昇している現代において、子供たちをどう育てていくか。教職員として、保護者として、地域の大人として、それぞれが主体的に、それぞれの立場から関わっていくことが、子供たちの健全な学びと育ちにとってなにより大切なことだと考えます。

子供たちが真っ直ぐに成長するには、子供自身に任せる事も大切です。特に心が育っていく過程においては、黙ってじっと見守る覚悟も必要です。一挙手一投足を常に注視していた方が、ある意味では安心かも知れませんが、そこはぐっと堪えて、あえて失敗させたり、自分で修復させたりすることが、自立した大人になるために必要な経験となるのです。

ただし、させてはいけない失敗については、大人が関与することが必要です。

7月20日から始まる夏休みには、外出の機会も増えることと思います。どこに誰と行き、いつ帰るのかは、家族として互いに伝え合うようにしてください。夏の間、あちらこちらで開催される祭りやイベントに、友人同士で、あるいは家族で出かけることもあると思います。そうした場では、見知らぬ誰かの撮影した画像にたまたま自分が写り込んでしまうといったことも起こり得ます。ご存じのように、昨今では、個人がスマートフォンで撮影した画像や動画を、SNSで世界中に発信することがいとも簡単にできるようになっています。徒に不安をあおるわけではありませんが、ネット社会と言われる世界の中で、より安全に生きていくために、何に気をつけたらよいのかを、家族で話し合ってください。そして、危険を察知し、近寄らない行動力を、自分を守る術として身に付けるよい機会にしてください。

夏休みの間に石南中生たちが、頭を耕し、体を鍛え、心を磨いて、一回り成長した姿を始業式の日に見せてくれることを楽しみにしています。40日間が実りある有意義なものとなるよう、家庭、地域での子供たちの見守りと声掛けを、どうぞよろしくお願いいたします。

## 3年間の集大成となる修学旅行

第3学年主任 百田 真矢

6月5日(水)～6月7日(金)にかけて、3年生は修学旅行を実施しました。修学旅行は中学校生活最後の宿泊行事となります。また、1年生からの学習の集大成の一つとなる大きな学校行事です。2年生の2学期から時間をかけてじっくりと準備をしてきました。

1日目は広島に行きました。平和記念公園での慰霊式、ボランティアガイドさんと共に碑巡り、平和記念資料館の見学、被爆体験講話を行いました。平和について広島と日本が歩んだ歴史を振り返り、深く考えることができました。

2日目は京都での班別行動でした。初めての京都だった人もたくさんいた中で、夏のような気温、たくさんの観光客などにより、事前に考えた班行動計画通りにいかなかった班がたくさんありました。しかし、班長を中心に臨機応変な対応をし、ほぼ予定通りに班別行動を行うことができました。大江能楽堂での能楽体験は、日本の伝統文化の神髄を学ぶ貴重な機会となりました。

3日目は京都でのタクシー行動でした。天候は残念ながら大雨でしたが、タクシーの運転手さんと共に多くの見学地を巡ることができました。東京に戻ってきてから書いたアンケートや作文には、「楽しかった」「日本の歴史や伝統文化について学んだことを、後世に継承したい」と書いている人が多くいました。今回の修学旅行のスローガンである「平和～歴史と文化を継承する～」が達成されたと実感しました。

今回の修学旅行は、実行委員を中心に生徒全員が最高の思い出にしようと頑張ってくれました。その結果、生徒にとって本当に良い思い出となったと思います。1年生から取り組んできた校外学習や宿泊行事の成果をつなげることが出来ました。運動会に続く2つ目の集大成となる修学旅行が事後学習の発表会をもって終わりますが、3つ目の集大成となる文化発表会、自身の進路決定、中学校生活の集大成となる卒業式まで気を抜かず、一つ一つの行事を生徒と全力で取り組んでいきます。保護者、地域の皆様、今後ご理解ご協力をよろしくお願い致します。

### 平和宣言

昭和二十年八月六日午前八時十五分、それは一瞬でした。一瞬にして広島市の街が地獄へと化したのです。街は焼け、人々は無残に死んでいきました。広島を地獄へと変えたのは原子爆弾です。二十万人以上の命を奪ったのは、僕たちと同じ人間の作った原子爆弾なのです。この事実を知り、僕は深く悲しみました。「人間は恐ろしい」そう痛感しました。この惨事を二度と繰り返さないようにするためにも、僕たちには事実と平和を後世へ伝承していく義務があります。広島で生まれていなくても、「あの」時代を生きていなくても、伝えなくてはならないのです。

この街で、今、私たちは、平和への思いを感じています。平和を考えるきっかけは、身近なところにあります。この日のためにみんなで折った千羽鶴、平和への強い思いが込められた被爆体験伝承者の話、そして、平和宣言。祖父母たちが、この73年間を生き抜いて、私たちに命をつないでくれました。私たちは、今まで受け継がれてきた命と平和への思いを受け止め、考え、自分たちにできることから、平和をつくっていく必要があります。今一度、身近な友達、世代の違う人々、様々な国や地域に住む人々と、平和について共に考えなくてはならないです。

現在でも世界で戦争や核兵器の製造は続けられています。命を落とす兵士、子どもがたくさんいます。日本でも悲惨な事件が後を絶たないです。今すぐに世界を変えることはできないかもしれませんが、平和の思いを世界へ発信し、それらをなくそうと働きかけることはできるはずで、世界の人々が笑顔で共存できるような、誰もが安心して生活することができる「平和」を追求していくことを誓います。

令和元年六月五日

練馬区立石神井南中学校第三学年生徒一同